5 生　活　科

川 﨑 一 朗

1．はじめに

(1) 本校における生活科の基本的な考え

本校では，子どもたちが自分自身の手を使い，自分の意志や感性で生きていこうとする力を育てることを思考した生活科学習を実践してきている。

【生活科の指導理念】

子どもたちに,「生活」を持たせ，子どもたちの価値観を軸にして学習展開をはかる。その生活の　場で，生きる力（知性と感性の統合）を自らの手でつかみ取らせる。[1)]

指導理念にある,「生きる力」の具体像と「生きる力」が育つための支援を図示してみる。

生きる力

具体像

① 自分の身の回りの変化や様子やできごとに関心をもって生活できる。
② 目や手や体を使って，身の回りの変化やできごとに働きかけることができる。
③ 見たり感じたりしたことをよく考えて，工夫しながら表現できる。
④ 友達と支えあって，自分の役割を考えながら行動できる。 [2)]

支　援

① 一人一人の児童の実態（現在の姿）を認める。
② 一人一人の思いや願いに基づくめあてや，多様な活動を大切にする。
③ 集団の中で，自分自身や他者のよさに気付くことができるようにする。

2．支援のあり方と評価について

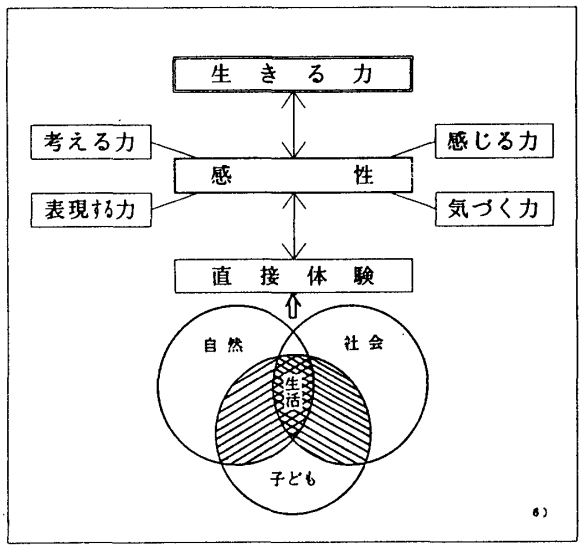
教師が一方的な「指導」や「助言」をしていては，生きる力を子どもたち自らの手でつかみ取らせることはできない。教師は子どもの思いや願いをしっかり受けとめ，活動を温かく見守り，時には，励ましの言葉をかけるなど，一人一人が成長するのを支え，手をさしのべることが必要である。そのことが支援であり援助である。[3)] 子どもたちが活動に対する振り返りをし,自己評価，相互評価をしやすい場を設定するために，支援者としての教師は,多様な子どもの活動を意味づけ,意義づけていく必要がある。具体的な評価場面は，活動の途中であったり,活動の終末部分であったり,活動の振り返りの場面であったりする。評価をしていくときに手がかりとなるものは，子どもたちの表現活動である。多様な表現活動が生まれるために次のように考えにもとづいて実践をすすめてきた。

① 学習活動のめざす方向や内容に対する事前検討を重視する。
② 限定的な評価（減点主義）でなく，仮定的な評価（加点主義）を行う。
　「○○できたか」→「どのように（な）○○するか」
③ 長期にわたり継続的に評価内容を蓄積する。

[4)]

3．生活科学習における『感性』と『生きる力』のとらえ方

感性は「価値あるものに気づく感覚」と定義される。[5] 具体的には，物や事象に対して感じ，気づき，考え，表現することである。この「感じ」「気づき」「考え」「表現する」活動は，冒頭で述べた本校が求める生活科学習の姿と基本的に同じである。では，本校の生活科の指導理念にある『生きる力』と『感性』との関係は，どのようにとらえたらいいのであろうか。左図は，そのモデルである。子どもたちをとりまく社会や自然の中に，関わりを持つ物や事象が存在する。言い換えれば，関わりを持った物や事象は子どもたちにとっての「生活」となる。関わりの方法は様々であろうが，間接的な関わりよりも，直接体験によって，関わりの密度はより深まりを見せると考えられる。その時に，子どもたちは自分にとって価値あるものに対して，より一層「感じる力」「気づく力」「考える力」「表現する力」を発揮し，物や事象に対して関わっていくであろう。このときにより豊かな『感性』が育まれ，子どもたちの自らの手で『生きる力』つかみ取っていくことができるのではないかと考える。



4．豊かな感性を育む生活科学習をめざして

感性を育む生活科学習は，物や事象に対して子どもたちの積極的なかかわりが必要であろう。また，物や事象にかかわった後で十分な満足感が得られなければ，次への活動への意欲がわきにくいと考える。そのために，次のような手だてが必要であると考える。

① 子どもたちにとって，積極的な関わりがもてる学習材の検討をする。
② 自分や友達の良さに気づく場を設定し，何でも言い合える学級の雰囲気作りをする。
③ 多様な表現活動が生まれるよう，支援をする。

「よし，やってみよう。」「次はどうしようか。」という子どもたちの意欲的な態度は，出会う学習材によって培われていく。積極的な関わりを生む学習材を見いだすためには，教師の感性が問われよう。このことは，子どもたちの豊かな感性を育むための第一歩であろう。子どもたちの心が解放され，受容的な雰囲気のある学級づくりを心がけ，よりよい支援の方法を模索しながら，豊かな感性を育み，生きる力をつかみ取らせる生活科学習をめざしていきたい。

《参考引用文献》

1）『個が生きる授業』　広島大学附属東雲小学校研究会　出版ヤマワキ　1991年　P．107
2）同上書　P．109
3）文部省　『小学校　生活　指導資料　新しい学力観に立つ　生活科学習指導の創造』　東洋出版社　1993年　P．19
4）研究紀要　『自己を高める評価力の育成』　広島大学附属東雲小学校　1993年　P．83
5）片岡徳雄　『子どもの感性を育む』　日本放送出版協会　1990年　P．74～P．75
6）『個が生きる授業』　広島大学附属東雲小学校研究会　出版ヤマワキ　1991年　P．108